

## SR-S348TC1 V14.09 変更内容一覧

### □修正内容

No.	影響範囲	内容
1	V12.05～V14.08 commit try コマンド実行時	commit try timeコマンドを実行し、指定時間経過による動的反映の切り戻しが行われ、運用している状態でshow tech-supportコマンドを実行すると、装置が再起動する。
2	V14.00～V14.08 MLAG利用時	ループが発生した影響などでMLAGを構成する一方の装置のみがCPU高負荷状態となり、対向装置との連携が途絶え孤立した状態になると、ネットワークが正常な状態に戻った後も、対向装置との間でMLAGが構成できない場合がある。
3	V14.00～V14.08 MLAG利用時	ループが発生した影響などでMLAGを構成する一方の装置のみがCPU高負荷状態となり、対向装置との連携が途絶え孤立した状態になると、その状態が解消するまで、ブロードキャストやマルチキャスト宛ての packets を折り返し転送や重複転送してしまう場合がある。